

平成 28 年度 総会・講演会

1. はじめに

道央技術士委員会では、5月13日(金)に、平成28年度の総会・講演会および意見交換会を行いました。今回で25回目の開催です。

当委員会では、室蘭市と苫小牧市で交互に、総会・講演会を開催しており、本年度は、ホテルウィングインターナショナル苫小牧(苫小牧市表町5-7-1)で行いました。出席者は20名(会員：11名 非会員：9名)でした。

2. 総会・講演会

(1) 総会

同日、総会に先立って開かれた幹事会で決定した本年度の活動方針・行事計画を上程し、総会にて承認を得ました。

例年通り、本年度も、施設見学会・講演会を、室蘭周辺と苫小牧周辺にて、それぞれ1回ずつ夏(7月中旬)・秋(11月中旬)にする計画とし、対象施設は、引き続き検討することになりました。また、本年度は、当委員会としての地域貢献活動について、幹事会を中心に検討を行い、来年度以降の実施を目指していくことになりました。



図-1 永澤代表幹事のあいさつ



図-2 総会の様子

(2) 講演会

本年度は、前苫小牧副市長の中野裕隆氏に「ネパール大震災に遭遇して」と題して、講演をお願いしました。



図-3 中野氏による講演

ネパール大震災は、2015年4月25日に発生しましたが、このとき、中野氏は、苫小牧ネパール協会(尾崎徹会長)の理事として、セレモニーに参加するため、首都カトマンズに滞在されていました。

苫小牧ネパール協会では、2001年から、ネパールの貧しい家庭の子供たちに対して、就学援助を実

施しており、その一環として、毎年4月末に、中学校を卒業した生徒をお祝いするセレモニーを行っているそうです。



図-4 卒業セレモニーに参加する中野氏
(右から4人目 中野氏のPPTから引用)

被災直後に現地で撮影した数多くの写真を用いて、被災状況や現地の文化などを説明していただきました。地震で倒壊したのは、ほとんどが、耐震性が不十分なレンガづくりの建物であったことや、多くのネパール市民が、震災直後は、余震による家屋の破壊を恐れて、なかなか屋内に戻ることができなかった様子がよくわかりました。



図-5 ネパール市街の被災状況(中野氏のPPTより引用)

また、日本のマスコミは、この大震災により、あたかも、ネパール全土に壊滅的な被害が発生したように報道していたのに対し、実際の被害は、一部の地域での限定的なものだったため、両者のギャップに大きな違和感を覚えたそうです。

私自身も、東日本大震災後、被災地を見るまでは、震災報道により、何となく東北地方全域が被災した

ようなイメージを抱いていたのですが、初めて現地を訪れ、太平洋側に被害が集中している様子を実際に目のあたりにして、先入観が払拭された記憶があります。今回のお話を聞いたときには、日本の震災報道のあるべき姿や、それらに対する我々の捉え方の難しさについて、改めて考えさせられました。

3. 意見交換会

講演会終了後は、隣接する会場に場所を移して、恒例となっている意見交換会を賑やかに行いました。

例年、北海道本部に技術士会の最新動向についての講演をお願いして、今回は、羽二生事務局長にお越しいただきました。こちらの手違いにより、本部への依頼が遅れて、大変なご迷惑をおかけしたのですが、快くご出席いただきました。



図-6 意見交換会の様子



図-7 羽二生北海道本部事務局長

4. おわりに

総会・講演会の開催に際しては、会員の皆さまに多くのご協力をいただきました。この場を借りて、御礼申し上げます。